

聖句

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。」

ローマの信徒への手紙 15章 13節

今年も矯風会の前庭の桜が咲き、道行く人々は足を止めました。矯風会が長く続けた廃娼運動の末、1956年、売春防止法が成立したその記念植樹の桜です。長く人々の記憶にとどめてほしいとの願いが込められているのです。

矯風会は設立当初から女性の性が貶められることに異議申し立てをしてきました。一夫一婦制の建白書を元老院に提出し、公娼制度にも強く反対して廃娼運動を進めました。作家北原みのり氏は、『「日本のフェミニズム」since 1886 性の戦い編』の中で、フェミニズムは女であるために受ける苦しさにむきあい、性の尊厳を求めた戦いであり、それは矯風会の発足の年に始まると言っているのです。

しかし131年後も女性差別の風潮は根強く残っています。海外では、著名な女性たちがセクシャルハラスメントを受けてきた事を、沈黙を破って告白し始めました。勇気をもって告発した人への共感が#Me Tooを合言葉に拡散しています。日本でも勇気をもって名乗り出た詩織さんの行動は話題となり、あとに続く人も出ていますが、大きな勢いとはなっていません。声をあげる人への心無い批判が被害者を怯ませているのではないのでしょうか。隣の韓国では大きく関心が広がり、セクハラへの抗議は実を結んでいます。前大統領の罷免運動から、声を上げれば社会が変わるという実感に基づいた勢いがとどまりません。差別は生きづらさを強いることになります。経済的な格差から住まいを失いホームレスになることが起きます。女性蔑視、男性優位の差別意識の中でDVの被害に会います。これらは、HELP入所の大きな理由となっています。

矯風会は緊急一時保護女性の家HELPと共に中長期滞在のシェルター矯風会ステップハウスを運営してきましたが、ステップハウスの入所者の減少が続き、4月から受け入れを一時休止することになりました。NHK特集では年間33,000人を超える10代、20代の若者が失踪し行方不明になっているとの報道がありました。彼らは福祉につながらず、公的施設にも救いを求めています。ステップハウスの必要がなくなったわけではありませんが、多様化するニーズにどう対応するか考えさせられる事態です。

再開に向けて女性福祉のあり方をさらに検討してゆかなければなりません。現在はいつでも再開できるよう施設の適正管理に心がけています。

公益財団がシェルターを運営する厳しさを日々感じていますが、御支え下さる皆様の祈りと献金、様々な献品が大きな力になっています。温かいご支援に心からの感謝を申し上げます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

川野安子（施設長、理事長兼務）



2017 年度 HELP 利用者概況

暴力被害に苦しむ外国籍女性・子どもたちと 迷いつつ新生活を踏み出す日本人女性

2017 年度の HELP 利用者は、外国籍女性 8 名、日本国籍女性 45 名、同伴児 13 名、合計 66 名であり、総宿泊数は 1,567 泊（前年度比 74.9%）であった。2016 年度に比べ、総利用者数、宿泊数とも減少した。それは、2017 年 4 月 24 日まで、新規入所者の受け入れを見合わせていた等の理由による。

前年度同様、2017 年度も年間を通して、月 3 回のミュージックセラピーを実施した。

DV 被害女性の安全確保等のため、HELP スタッフが医療機関へ同行した割合は、全入所者では 14.7%（前年度は 14.7%）と前年度と同じ割合であった。他方、外国籍入所者では 80%（前年度は 88.5%）となり、全入所者に比べて同行割合がとても高い状況が続いている。

< 外国籍女性 >

外国籍女性総数 8 名のうち、子ども連れは 5 名おり、同伴児は 8 名であった。子どもの年齢は、学童の他、6 歳未満の未就学児である。

入所理由の上位は DV (87.5%) で、それ以外は居所無し (12.5%) である。2016 年度に引き続き、妊娠女性の受け入れはなかった。

外国籍全体の平均滞在日数は 16.38 日、2016 年度に比べ 25 日間近く短縮された。学童を受け入れた際に、できるだけ早期に退所が叶うようにしたこと、本国帰国希望の居所無し受け入れが相次いだこと等、短期型の利用が多かったことによる。

● DV 被害者…2017 年度に依頼された DV 被害者の多くは、日本語での日常的な会話が可能な母子であった。学童には、入所直後から一日も早く学校へ通えるよう大人（支援者）が努力する約束をし、毎日学習指導や外遊びの時間を設け、シェルターでの生活にメリハリを持たせるよう試みた。父からの虐待のない安全な環境の中で、本来の子どもらしさを取戻し、変化していく姿は周りの入所女性やスタッフにも元気を与えた。

単身の高齢女性には、母国語で支援するスタッフによるゆるやかな話し合いを通し、長期にわたる過酷な経験を振り返る機会を提供した。

● 妊娠女性…2016 年度に引き続き、妊娠女性の受け入れは皆無であった。

● 居所無し…2017 年度に受け入れした女性は、早期の本国帰国を希望する方たちであった。シェルター入所直後は、心身共に疲弊し警戒心が強く、それまでの生活の過酷さの影響と思われた。特に、滞日期間の短い女性は、言葉が通じず途方に暮れる様子も見られたが、大使館や入国管理局との連携の元、帰国の見通しが立つにつれ日に日に表情が明るく、会話の量も増えていった。本国で待っている家族との再会を目前にした退所（出発）時の笑顔がとても印象的だった。

● 入所者・退所者へのケア… 2017 年度は、例年実施している春夏の季節行事が行えなかったため、入所者を対象に施設内行事（ハローウィンの仮装大会など）を行った。

その他、退所者の居場所づくりや、必要に応じた支援などを継続して行っている。

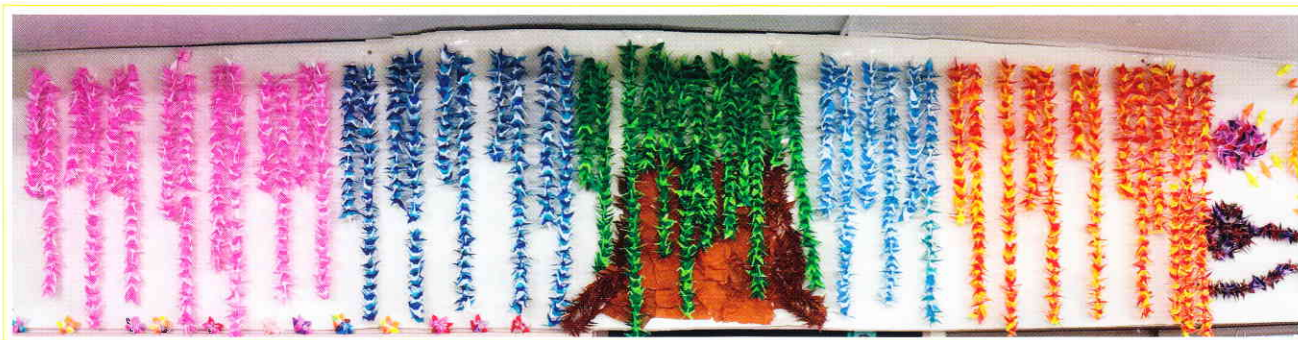
< 日本国籍女性 >

日本国籍女性は 45 名、うち子ども連れは 4 名であった。入所理由は、居所無しと DV（夫・恋人からの暴力）が 36.0% と同じ割合で、次いで妊娠が 14.0%、家族からの暴力が 8.0%、その他 6.0% であった。居所無しが 6 割近くを占めた前年度と異なり、DV（夫・恋人からの暴力）及び家族からの暴力、妊娠女性の利用割合が増加した。

2017 年度に DV（夫・恋人からの暴力）で入所した女性の中には、制約の多いシェルターの中で、乳幼児を抱え、離乳食等、年齢に応じた子育てに心を砕く一方で、将来の生活に思い悩みつつも自分らしさを失わずに過ごした女性たちもいた。家族からの暴力を受けた若い女性たちは、様々な悩みを抱えた課題の解決に取り組む一方で、幼い頃の習い事を披露したり、入所中の子どもたちと仲良くする時間を大切にしたりしながら過ごした。

また、居所無しで入所の方の中には、帰化して日本国籍を持つが、文化・言語的には海外にルーツを持つ女性も含まれた。それらの女性たちは、海外からの「帰国」直後に、落ち着いた居所を得るまでの間利用された。HELP では、インターナショナルな雰囲気の中で、理解しやすい言語でのコミュニケーションをしながら、徐々に日本での生活に転換していくよう支援した。また、長年働き、自力で生き抜いてきた女性は、HELP 滞在中に明らかになっていった、思うようにはいかない家族との関係を黙って受け止め、新生活を歩み出そうとする強さを見せた。

平均滞在日数は約 26.6 日、前年度より 2 日近く伸長し、2 年連続の伸長となった。



利用者作成の折鶴アート

< 電話相談 >

2017 年度の電話相談は、日本を含む 28 か国の方から、681（前年度比 103.9%）の相談項目について相談があった。電話相談に関係する国籍数は昨年と比べやや増加している。その相談内容は、障害者の妻を介護している男性からの本国移住のための在留資格申請手続きに関するものから、弁護士・病院医療相談室に相談している外国籍の方に関する社会資源の照会などまで、多岐にわたる。その他、言葉の壁や DV 等により情報が制約された方からの危機介入を求めるものもある。

また、日本人の電話相談には、DV や性虐待経験の「その後」の生活の生きづらさを訴える電話に加え、インターネット等で電話番号を調べ、「初めて」相談する方も少なくない。何から話せばよいのか迷いながら始まる会話に、「電話相談」にたどり着くまでの迷いや敷居の高さを感じる方が今もあることを知らされる。

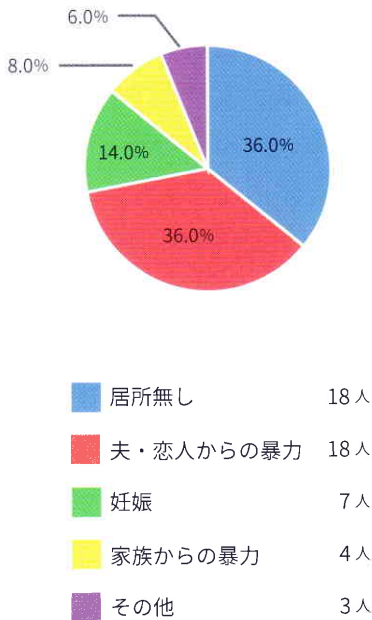


2017 年度統計表

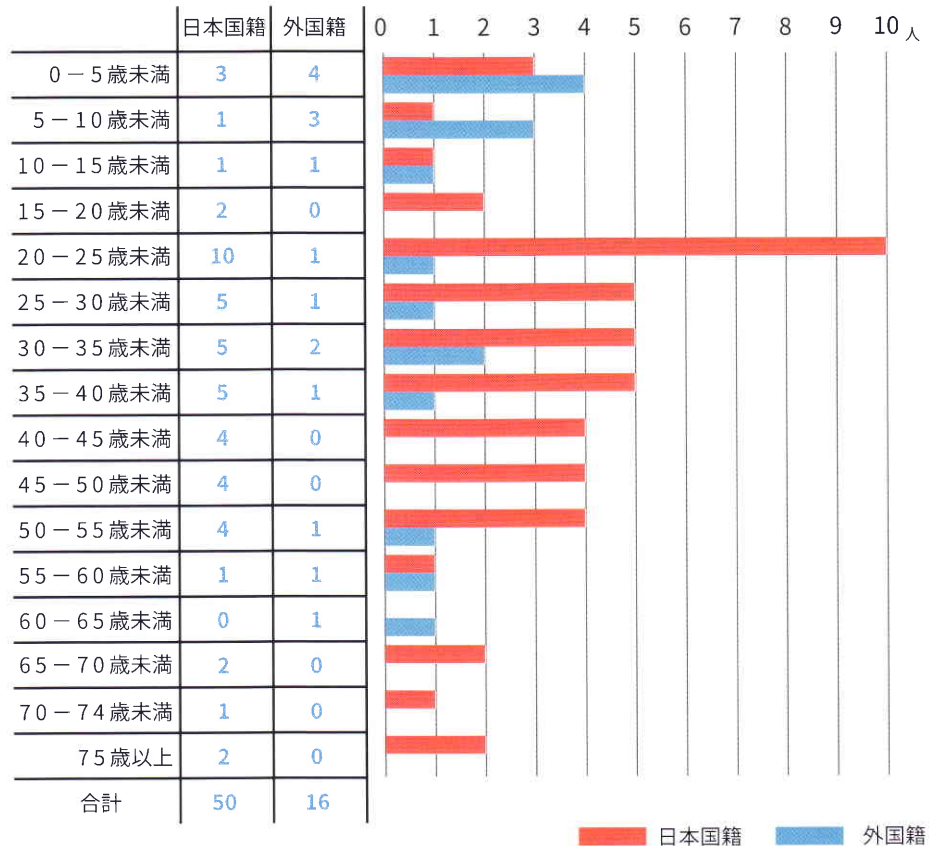
利用者内訳

2017年4月1日～2018年3月31日

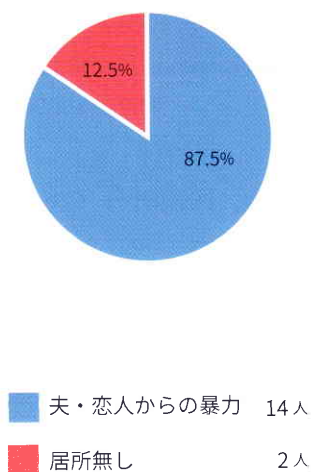
日本国籍



利用者年齢分布



外国籍



HELP 国籍別滞在者数

(2017年4月1日～2018年3月31日) 昨年度から年度をまたいで滞在した者を含む

HELP 国籍別滞在者数

国籍	女性	同伴児
フィリピン	5	3
カンボジア	1	3
バングラディシュ	2	2
小計	8	8
日本	45	5
合計	53	13

外国籍女性 8人
その内同伴児のいる女性は 5人

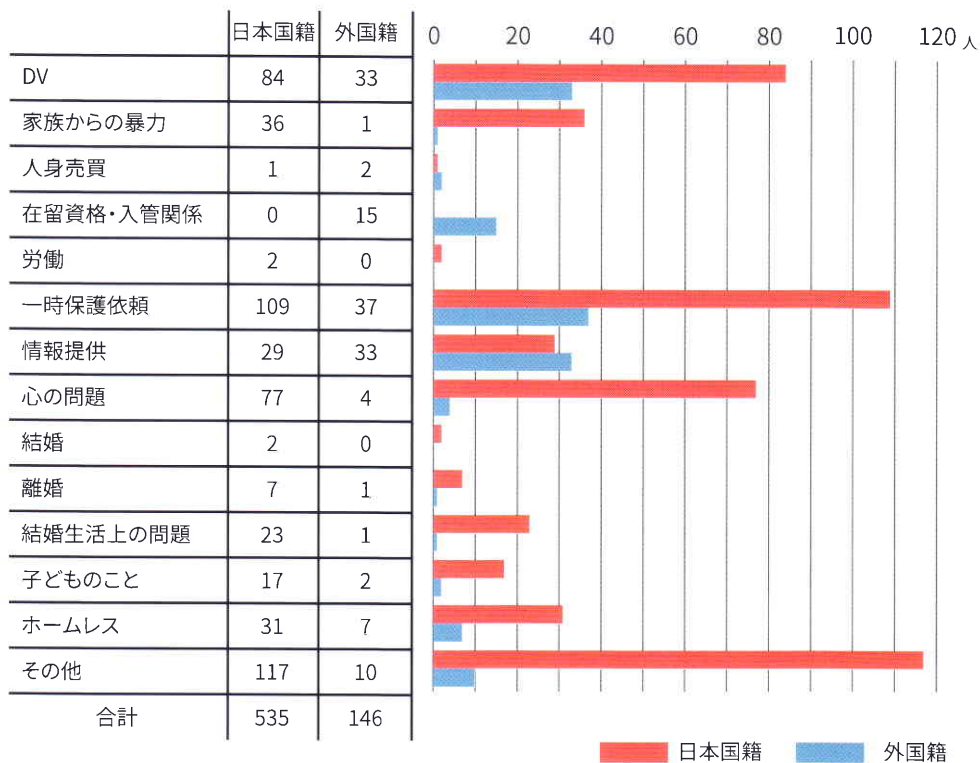
日本国籍女性 45人
その内同伴児のいる女性は 4人

外国籍利用者地方別内訳

出身地	人数
東京	5
埼玉	3
合計	8

電話相談項目件数

内容別



国籍別

国籍	件数
日本	535
フィリピン	49
バングラディシュ	14
タイ	10
USA	8
イギリス	5
ロシア	5
パキスタン	5
フランス	4
ブラジル	4
中国	4
ベトナム	4
カナダ	3
モルドバ	3
カメルーン	2
ナイジェリア	2
ウガンダ	2
カンボジア	2
韓国	2
朝鮮	2
コロンビア	2
インド	1
インドネシア	1
ネパール	1
ギニア	1
キルギス	1
シリア	1
メキシコ	1
不明	7
合計	681

利用者退所先

退所先	日本国籍	外国籍
施設	34	5
アパート	4	0
女性センター	4	2
帰国	0	2
帰宅	5	3
友人・知人宅	0	0
路上	0	0
入院	0	0
住み込み就職	0	0
不明	0	0
未定	2	4
その他	1	0
総計	50	16

外国籍利用者平均滞在日数

2013年	23.39日
2014年	38.14日
2015年	27.14日
2016年	40.14日
2017年	16.38日

国籍別宿泊数

日本	1305
外国籍	262
合計	1567



HELP の活動をお支えください！

ボランティア

女性の家 HELP 活動説明会 毎月第一金曜日 午後1時30分から

ボランティアご希望の方は、お電話または矯風会HPでお申込みの上、この活動説明会にご参加ください。

《主なボランティア活動内容》 片付け、掃除のお手伝い、植物の手入れ他

物品寄付

いつもさまざまな献品を頂き、スタッフ一同心よりお礼申し上げます。

女性の家 HELP では、利用者の方への日用品等のお渡しにあたり、それが「日々の生活に不自由のない」状況に留まらず、慣れた環境や人間関係から離れ、多くのお気に入り物品を失ってシェルターへたどり着いた女性や子どもたちが、十分な休息をとり、新しい生活に向けた「希望」と「意欲」を育むきっかけとなるよう心掛けております。皆様からお寄せいただいたお志を活かして、年齢や国籍・文化等に基づくおひとりおひとりの多様な必要に応じていけるよう今後も努力してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

【食料品】 調味料（砂糖・塩・醤油・サラダ油）、ジャム、お菓子、嗜好品（コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・ジュース・クリーム） *賞味期限内の物

*お米券の受付は終了しました

【日用品】 シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用洗剤、ティッシュペーパー、化粧水（中瓶）、乳液（中瓶）、化粧品、歯磨き粉（中サイズ）。

【衣料品】 大人・子ども用ーパジャマ、スウェット上下、靴下、部屋履き、ジャケット。

大人用 - パーカー、インナー（半袖、長袖） *新品をいただければ幸いです。

【その他】 ベビーカー（新品）、サングラス、靴、ノート、タオルケット、バスタオル（新品）、フェイスタオル（新品）、手芸用品（刺繍糸など）、クオカード、不要な商品券など。

送付先：〒169-0073 新宿区百人町 2-23-5

日本キリスト教婦人矯風会気付 HELP 事務局

月曜日から金曜日までの配達指定をお願い致します。

防犯・防災に備えて ～ 2017 年度の取り組み～

より安全な施設であることを目指し

- ・施設内に防犯カメラ等が増設されました。
- ・ソーラーパネル・テント付簡易トイレ等、防災用品を整備しました。
- ・矯風会全体の職員を対象とした「防犯・防災の全体研修会」に HELP スタッフが参加しました。